



コスモスだより

【ニューストピックス】

泌尿器科

診療の幅と質を追求する 一丸体制のチーム医療



【お知らせ】

患者サロン『がん患者・家族懇話会』
イベントレポート
新年のご挨拶 院長今本 治彦
各種相談のご案内

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

泌尿器科 診療の幅と質を追求する 一丸体制のチーム医療

当院の泌尿器科は、「大阪府がん診療拠点病院」として、前立腺がんや腎臓がんなど泌尿器がんの治療を行っています。また、南大阪での泌尿器科拠点病院を目指し、診療の幅と質を追求する当院独自のチーム医療の在り方を追求してきました。今回は、当院の泌尿器科診療への取り組みと、腎臓がんの内視鏡外科手術についてご紹介します。



■ 泌尿器科の診療内容

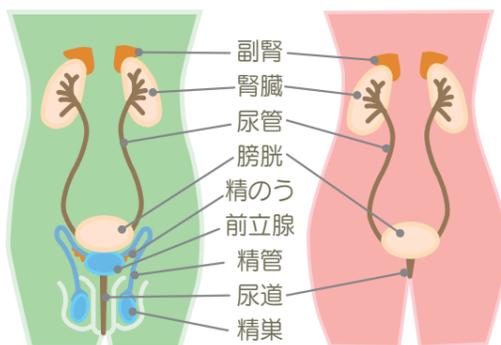
泌尿器科の特徴

泌尿器科は、前立腺など高齢の男性を対象とした科とされがちですが、男性生殖器（陰茎・陰嚢・精巣・前立腺）の他、男女の腎・尿管（腎臓・尿管・膀胱・尿道）など、多くの臓器を対象としています。

内科的治療・外科的治療の両方を行いますが、外科的治療を中心とした診療科といえます。腎臓は体の奥の方にあり、前立腺は複数の臓器が密接して神経や血管が集まっているなど、泌尿器科の手術には非常に緻密で高い技術が必要とされるものが少なくありません。

また、近年増加傾向の排尿障害・尿失禁、膀胱脱などの「女性泌尿器科」分野や、小児の先天性疾患や夜尿症を扱う「小児泌尿器科」分野もあり、患者さんの範囲が広いことも特徴の一つです。

《当院泌尿器科の取り扱い臓器》



女性泌尿器疾患

生活の質 (QOL) を左右する「おしっこ」の悩み

多くの女性が、頻尿や尿漏れに悩まされています。トイレに間に合わない、夜に何度も起きて眠れないなど深刻になると、外出しづらい・引きこもり・就業困難など、身体的なダメージだけでなく、社会的活動の制限や精神的ダメージも招いてしまいます。

自分らしくイキイキと暮らすために、恥ずかしがらず、「おしっこ」の悩みをご相談ください。

【こんな症状があればご相談を！】

- 日中8回以上、夜間2回以上トイレに行く（頻尿）
- 咳やくしゃみで尿がもれる
- 残尿感や排尿後の痛みがある
- 尿意を感じにくい、尿が出にくい

小児泌尿器疾患

慎重な判断と経過観察が必要な先天性疾患

対象臓器は大人と同じですが、小児では先天的な異常（形や代謝異常）が多いのが特徴です。

小児は臓器自体が小さいため、外科的治療の難易度が高だけでなく、成長と共に治癒する症状もあれば迅速な治療が必要な症状もあり、大人とは違った視点での注意深い観察と判断が必要となります。

【小児泌尿器疾病例】

- **膀胱尿管逆流**：膀胱の尿が腎臓に逆流する症状。細菌が腎臓まで送り込まれてしまい、腎盂腎炎を起こして高熱が出る。
- **閉塞性尿路疾患**：様々な原因で正常な尿流が妨げられ、腎機能障害を起こす。

診療の幅 の追求

泌尿器がん診療から、女性泌尿器疾患、小児泌尿器疾患まで、泌尿器全領域を診療

他院からも、小児の泌尿器科患者を積極的に受け入れ

泌尿器科は取り扱う臓器が多いため、一部の疾病のみを対象にした施設も少なくありません。中でも、小児の尿路や生殖器の疾患を専門的に精査・加療できる病院は少ないのが現状です。当院では小児についても、停留精巣など頻度の高い疾患から非常に稀な疾患まで幅広く対応。他院からの受け入れも積極的に行っています。小児泌尿器疾患は、成長過程や成人後に新たな問題（腎機能障害・排尿機能障害・性機能障害など）が起こる場合もあり、継続的な観察や診療が必要です。当院では、小児期から継続して対応することができます。



女性の尿失禁や膀胱脱などの手術も実施

当院では、尿失禁の手術や膀胱脱など、女性特有の泌尿器疾患に対する各種手術も行っています。治療法は手術だけではなく、運動療法や薬物療法で改善する場合があります。症状のある方は、まずご相談ください。

診療の質 の追求

医師4名、全員体制での診療・治療を行う
当院ならではの「一丸体制のチーム医療」を実施

最適な治療は何かを医師全員で十分に検討

レントゲン検査をした患者さんや入院予定の患者さんについては、カンファレンス（症例検討会）にて医師4人全員で検討とチェックを行っています。抗がん剤を使用予定、手術を検討中の患者さん、重症の患者さんに対しては、看護師も交えて議論をつくり、最適な治療法を決定。患者さんの状態や状況を十分に検討しご希望を伺いながら、腹腔鏡手術をはじめ各種内視鏡外科手術・放射線治療・レーザー治療等の最新治療法も積極的に施行しています。



入院患者さんの治療は、主治医だけでなく医師全員で行う

入院中の患者さんには、毎日できる限り全員がベッドサイドを訪ねて、状況を把握するようにしています。また、入院中に安心して毎日を送れるよう、全員で診療にあたることで精神的なケアにも気を配るよう努めています。

◆ 一丸体制のチーム医療は100%であるために150%を目指す手段

チーム医療は、患者さんを中心に様々な職種のスタッフが診療に当たり患者さんを支える体制です。それに加え、当院泌尿器科のチーム医療は「医師が全員で治療する」を含んでいます。なぜそこまでするのかと問われれば、「100%であるために150%を目指す」ため。医療に100%はありません、だからこそ100%を目指し150%の努力をするのです。

全員カンファレンスは、朝7時から（笑）始まります。医師を育てるという観点はもちろん、100を99にしてしまう取りこぼしを未然に防ぐことができます。更に、ご家族や患者さんの思いを汲みながら、医師としての経験や上下関係を越えて率直に意見を出し合い、時には戦わせる中で、思わぬアイデアが出るかもしれない。医師全員がベッドサイドを訪ねれば、患者さんを診る眼が増えるだけでなく、患者さんと医師とのコミュニケーションの機会も増えます。患者さんからも気軽に声を掛けていただいて、不安を少しでも取り除きたい。話しやすい医師がいれば主治医でなくてもかまいません、皆で情報を共有していますから。それが、我々が続けてきたチーム医療の在り方です。



副院長 兼
泌尿器科主任部長
加藤 良成

【資格】
日本泌尿器科学会専門医・指導医
難病指定医
小児慢性特定疾患指定医

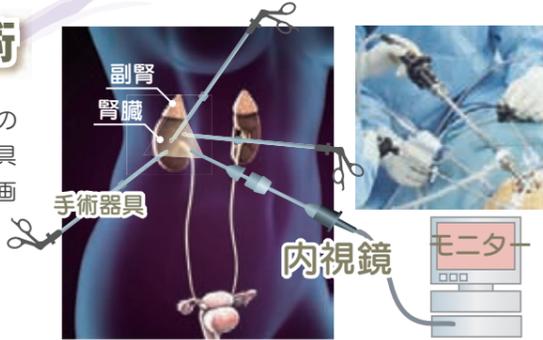
泌尿器科

腎臓がんの内視鏡外科手術

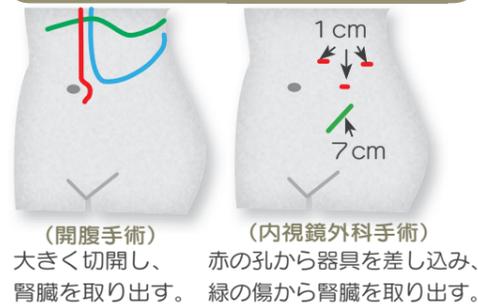
当院は、昨年10月から「低侵襲外科手術センター」をスタートさせ、より安全で安心な内視鏡外科手術のため、診療科の枠を越えた取り組みを始めています。泌尿器科もその一角として、腎腫瘍（腎がん・腎良性腫瘍）、腎尿管がん、副腎腫瘍での内視鏡外科手術を行っています。

負担の少ない、体に優しい手術

内視鏡外科手術は、お腹や脇腹に開けた小さな穴から、専用の内視鏡（カメラ）やマジックハンドのような鉗子などの手術器具を挿入して、モニターに映し出される体内の臓器や手術器具の画像を見ながら行う手術です。



腎臓摘出術の創部（傷跡）例



- 傷が小さい
- 出血が少ない
- 癒着が少ない

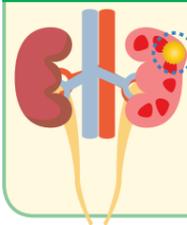
●痛みが少なく回復が早い

皮膚や筋肉の切開が少ないため痛みが少なく、翌日から食事と歩行を開始できます。身体への負担が少なく早期のリハビリが可能で、早い回復につながります。

●早期退院・社会復帰ができる

早期退院で、経済的・精神的負担を軽減できます。内視鏡下腎臓摘出術の場合、術後5～7日で退院可能です。

腎部分切除



腎臓は、血液を濾過し老廃物を尿として体外に出す働き、ホルモンを分泌して血圧調整や造血を促したり、体液量やイオンバランスの調整など様々な働きがあります。

腎臓に腫瘍ができた場合、腎臓は2つあるため以前は全摘出されていました。しかし今では、腎機能を維持するために腎臓を残すこ

とが有効と考えられ、早期の腎臓がんの場合、腎部分切除が選択されるようになってきました。内視鏡下腎部分切除術は、当院泌尿器科でも実施しています。

喫煙・高血圧・著しい肥満は腎臓がん発症の危険因子。まずは喫煙と生活習慣の見直しを！

安全な内視鏡外科手術のために、技術を磨き技術を伝える

内視鏡外科手術は、低侵襲手術として広く行われるようになりました。患者さんにとってのメリットも大きく、これから適応が広がっていくことでしょう。しかし、開腹手術に比べ技術的に難度が上がるのも事実です。何より重要なのは、安全に実施できる技術や環境があること。日本泌尿器内視鏡学会では、高い技術レベルの腹腔鏡手術技術を保証するため、一定期間の修練を行い認定試験に合格した医師を泌尿器腹腔鏡技術認定医として認定しています。私もこの泌尿器腹腔鏡技術認定医の資格を取得し、今では指導する立場になりました。

そんな中、設置されたのが「低侵襲外科手術センター」です。診療科は違えど、内視鏡外科手術には共通するポイントが多くあります。他の診療科と協力しながら、内視鏡外科手術の安全性と技術力向上に貢献できればと願っています。



泌尿器科副部長 齋藤 允孝
【資格】日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

がん患者さんやご家族の気軽な話し場 患者サロン『がん患者・家族懇話会』

【テーマ】乳がん患者さんとそのご家族対象のおしゃべり会

【日時】3月12日（火） 14:00～15:00

【場所】市立貝塚病院 4階会議室 【費用】無料（要予約）

【申込・お問い合わせ】地域医療連携室 ☎072-422-5865

※参加はがんの患者様かそのご家族様に限らせていただきます
※参加いただく方は、個人情報やプライバシー保護にご配慮をお願いいたします

●日程・内容等詳細はホームページでご確認ください

市立貝塚病院 患者サロン 検索



同じ辛さを知っている者同士だからこそ伝わる思いがある

【栗尾】「患者サロン」が始まったのは平成27年ですから、そろそろ4年になりますね。

【山田】当院は「大阪府がん診療拠点病院」に指定されています。ですから、質の高いがん診療の提供だけでなく、がん患者さんやご家族などに対するこうした支援も我々の重要な役割です。

【栗尾】「患者サロン」にはテーマを決めてのミニ勉強会があり、その後は患者さん同士で語らう時間です。話の内容は流れ任せなんです。認定看護師やMSW（メディカルソーシャルワーカー）が、ファシリテーター（促進者）として参加しています。

【山田】病院が主催者ではありませんから、職員はあくまで促進役。目的は、患者さんやご家族が気兼ねなく話せる場を作るためのお手伝いです。

【梅本】ご質問がある場合には、認定看護師としてできる範囲でお答えもしていますよ。知識だけお伝えしても、個人に合う合わないがあったり、ちょっとしたアドバイスが必要な場合もありますから。

【山田】「患者サロン」に医師は参加しませんが、「患者サロン」をご案内することはあります。診療時には

症状の訴えが主になりますが、費用のこと生活のことなど、身体的な苦痛以外にも様々な不安や困難なことが出てくるでしょう。「患者サロン」が、それを和らげる一つのきっかけになればと思っています。

【梅本】告知後のショックの中、たまたま院内のポスターを見て参加された方なのですが、ずっと泣いて一言も喋れず、他の参加者から「大丈夫？」と声を掛けられていたんです。その方が後日入院された時に「あの時が一番ピークだった。皆さんに声を掛けてもらって、私だけじゃないと分かったからすごく元気になった」と、人が変わったように前向きになられていました。

【栗尾】「共感できて嬉しい」と、ご友人を誘われたり、何度も参加される方もいらっしゃいますよね。

【梅本】がんの経験をされた方はその体験を話していただきたいし、これから治療を始められる方は、率直な気持ちを出して、お話を聞いて励みにしていただきたい。なかなか話ができないという方でも、「お話を聞くだけでも癒されたり励みになった」という言葉をいただきます。サロンをやって良かったと思う瞬間ですね。

【山田】私は、ご家族にも是非参加していただきたいです。がんと向き合う辛さや不安は患者さんだけではなく、家族として、がん患者さんの気持ちに寄り添うためにもよい機会になるはず。少し精神的に余裕ができてからでもいい、きっと助けになると思うんです。

【梅本】今回は乳がんがテーマなのですが、ご主人や娘さんと一緒に参加される方も多いです。

【栗尾】テーマは、堅苦しいものだけではなく、趣味やリラクゼーションなど、気分転換できる内容も取り入れています。「ベースメイクの基本」というテーマでは、美容師さんにも来てもらったんです。入退出も自由ですから、本当に気軽に参加して欲しいですね。



MSW（メディカルソーシャルワーカー） 栗尾 雅子
消化器内科主任部長 相談支援委員長 山田 幸則
乳がん看護認定看護師 梅本 郁奈子

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 大阪二色の浜

平成 30 年 9 月 22 日(土)・23 日(日)
【場所】市民の森 (シェルシアター)

このイベントは、患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合いながら、がん征圧を目指すチャリティ活動です。現在世界約 30 ヶ国約 6,000 ヶ所で開催され、年間寄付は 470 億円にのぼります。

今回の大阪二色の浜の参加者数は 678 名、サバイバー 21 名、ボランティア 13 名、合計 712 名となりました。

当院は「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受けており、毎年ボランティアで参加しています。患者さんやご家族と、病院とは違う環境でふれあうことで、「がん征圧」への思いを新たにしています。

● 当院医師による、思いやりあふれる医療講演

「前立腺がんのあれこれ」と題して、当院泌尿器科齊藤允孝医師による医療講演を実施しました。約 60 名の方に参加いただき、検査・治療の話に加え、患者さんに対する思いなども聞くことができました。



第22回 病院祭

平成 30 年 11 月 17 日(土)【場所】市立貝塚病院

今年は模擬店のない「ミニ病院祭」でしたが、約 450 人の来院を迎えました。

● 医療講演会「がんの予防と早期発見」

今年は「貝塚市がん対策推進条例」に沿ったテーマで、院長を講師に医療講演を開催。同時手話通訳も取り入れました。多くのご参加、ありがとうございました。

● みずみずしく華やかなロビーイベント

今年は、学生の吹奏楽部・合唱部・ダンス部が出演。エントランスホールを大きく使った、日々の練習量がにじみ出る迫力あるパフォーマンスに、来院者たちから大きな歓声と拍手が沸きました。



第31回 市民健康まつり

平成 30 年 10 月 14 日(日)【場所】市立保健センター

市民健康まつりは「市民が健康について考える機会を得ることで地域の健康づくりを推進すること」を目的に開催され、当院も毎年コーナーを設けています。

● 認定看護師の紹介／禁煙のすすめ

認定看護師の専門性や看護の質の向上について、ポスターを掲示して紹介。「いろんな活動をしている」「安心して看護を受けることができる」とのお声をいただきました。また、禁煙のすすめコーナーでは、熱心に相談される方が多くいらっしゃいました。

● 音楽にのってストレッチ!

今年は「家庭でもできるストレッチ(椅子に腰かけての手足の運動)」を実施。延べ 70 人の方に、音楽に合わせた体操を楽しく紹介しました。



第6回 ブラック・ジャックセミナー

平成 30 年 11 月 17 日(土)【場所】市立貝塚病院

「ブラック・ジャックセミナー」は、高校生を対象とする手術体験プログラムです。当院の外科・産婦人科医師、看護師の指導のもと、実際の手術室で電気メスや吻合器を用いた最新医療機器体験や縫合体験、内視鏡トレーニング体験などを行いました。開始時は緊張した様子でしたが、終了後の懇親会では和気あいあいと医師や看護師と意見交換していました。

参加した高校生のアンケートには、「実際に電気メスを使えてよかった」「内視鏡の操作が難しかった」「医師・看護師と話ができて、将来を具体的に考えることができた」など、喜びの声が。将来、一人でも多くの学生が医療従事者として活躍されることを期待しています。



院長 今本 治彦

新年明けまして おめでとうございます

皆様には新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。私も当院に赴任してはや9か月が過ぎ、はじめての年始を新鮮な気持ちで迎えております。

日頃より、当院に対して多くのご指導、暖かいご支援をいただき、誠に有難うございます。

昨年を振り返りますと、6月の大阪府北部地震、多くの被害者を出した西日本7月豪雨、9月の北海道胆振東部地震など多くの自然災害が発生しました。当院においても、台風21号により、病院周辺の木々が倒され、施設の破損などの被害と、いつ復旧するかわからない停電による休診を余儀なくされました。緊急災害対策本部を立ち上げ、職員の一丸となった行動と皆様のご協力のおかげで、大きな問題もなく無事乗り切ることができました。ご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。今回は、幸い電気が約12時間で復旧しましたが、災害に対しての非力さを痛感させられました。地球温暖化などに伴う気候変動により、今後も水風害などの被害の頻発化が懸念されます。これを教訓に、ライフラインが途絶える大災害などに対する備えを今後も十分に検討し、備えなければならないと考えています。

当院におきましては、4月に入院前から退院後の外来・在宅療養まで、切れ目のない医療介護を提供するため、「入退院支援センター」を開設しました。まずは安心して入院生活をスタートできるように、入院前面談の対象患者さんを徐々に広げているところです。10月よりは「Qスイッチルビーレーザー」を導入し、あざ・シミなどの治療を開始いたしました。また、「低侵襲外科手術センター」を設立し、より安全で質の高い内視鏡外科手術を行うため、診療科を横断して環境整備を行っています。

今年は亥年です。猪突猛進といいますが、「市民の皆さんに寄り添える、働き甲斐のある病院」を目指して、全員一丸となって突き進んでいきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

■ 各種相談(無料)のご案内

要予約

患者様の様々なお悩みや疑問にお応えする各種相談を、無料で行っています。相談内容についての秘密は厳守いたしますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【申込・お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865 ※1階総合案内でも予約受付

【相談時間】 おひとり様1回につき30分程度



| 相談項目 | 相談曜日 | 相談時間 | ご相談の内容/担当 |
|--------|-------|---------------|--|
| がん相談 | 月~金 | 9:00 ~ 17:00 | 【内容】患者さん・ご家族からの様々ながんに関する疑問や悩み 【担当】看護師・医療ソーシャルワーカーなど各分野のスタッフ |
| 医療福祉相談 | 月~金 | 9:00 ~ 16:00 | 【内容】医療費や社会福祉制度の利用についてのご相談、退院・転院に関するご相談、治療・療養に関するご相談など 【担当】専門の相談員(医療ソーシャルワーカー) |
| 医療看護相談 | 月~金 | 9:00 ~ 11:00 | 【内容】療養上で心配なことやご家族の看護・介護の方法など 【担当】看護師・医療ソーシャルワーカー |
| 薬事相談 | 水 | 9:00 ~ 11:00 | 【内容】服用されているお薬について 【担当】薬剤師 |
| 栄養相談 | 金 | 9:00 ~ 11:00 | 【内容】病気に合わせた献立や料理の方法、食材など 【担当】管理栄養士 |
| 女性専門相談 | 火・水・金 | 13:00 ~ 16:00 | 【内容】思春期から成熟期、更年期に至るまで、女性特有の様々な身体的症状や精神的な悩み 【担当】看護師 |